

IV-30

仙台市の大型観光バスの流動実態と問題点

東北大学工学部 正員 ○小林眞勝

東北大学工学部 正員 須田 熙

1. はじめに

仙台市は政令都市 2年目を経過し東北の拠点都市として益々発展の途上にある。仙台市を訪れる観光客は年間 800万人に及び、さらに年々増加の傾向にあり、市内を流動する観光バスも増加していると思われる。特に青葉城趾周辺では数年前より観光バスの路上一時駐車が目立つ様になった。

本研究は青葉城趾を中心とする観光バスの流動とその問題点を明らかにすることを目的としている。具体的には青葉城趾周辺路線に一時駐車している観光バスの年間観測及び観光バスの市内における流動調査を行う。

2. 路上一時駐車の現状

観光バスの路上一時駐車について定量把握するため、路上一時駐車が多い青葉城趾周辺（図-1）の路線において平成2年の毎週木曜日に定時観測を行



図-1 調査施設と路上一時駐車観測路線図

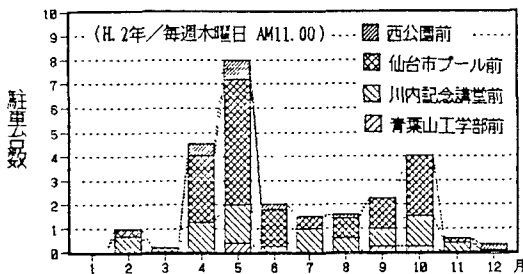


図-2 観光バス路上一時駐車の数

つた。図-2がその結果であるが春と秋の観光シーズンにピークのある分布形で年平均は約 2台であった。最も駐車台数の多い5月は平均で約 8台であった。特に路上駐車が仙台市プール前の平均 5台は駐車スペースの約 8台からみて常に満杯の状態と言える。

3. 大型観光バスの流動実態調査

(1) 調査の概要

観光バスの仙台市内での流動を把握するため、市内主要施設において流動実態調査を行った。調査日は仙台市に観光入り込み数の多い春・夏・秋にそれぞれ平日と日曜日の2回、合計6回の調査を実施した。以下は調査の概要を示す。

○調査日／平成2年 5/24.27 8/2.5 10/25.27

／午前10.00～午後15.00

○調査場所／仙台駅・瑞鳳殿・博物館・青葉城趾
動物公園・仙台市プール前（図-1）

○調査対象／大型・中型・小型（マイクロ）バス
但し、定期観光バスは除く

○調査内容／1時間毎の駐車台数
／乗務員から流動をヒヤリングする

(2) 流動パターン

サンプル数は345台で、20台以上とそれ以下の主な流動を図化したのが図-3である。青葉城趾と高速道路及び松島を結ぶ流動が多く、松島の行き帰りに青葉城趾に立ち寄るパターンが多いことが分かる。次いで仙台駅を中心とした流動が多く、これはJR等の接続の為に考えられる。特に松島・塩釜・高速道路へと直接行くパターンも多く、市内は素通りをしていることが分かる。青葉城趾と博物館・動物公園・ベニエランドなど市内の主な施設間の流動は非常に少ない。他の主流動を見ると都心部（買物・ホテル・役所・会館等）への流動が個々は少ないが集約すると相当数集中していることが分かる。又、同様に市内・他（美術館・大崎八幡・プール前等）も集約すると流動が多いことが分かる。仙台空港から

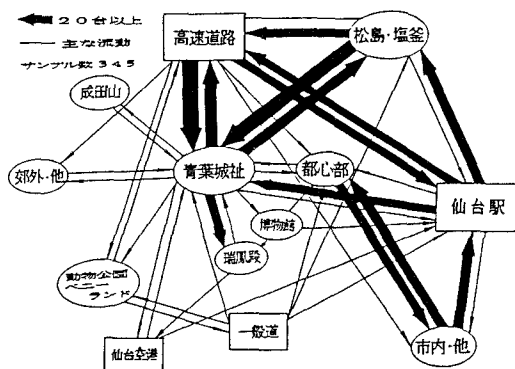


図-3 観光バスの流動図（調査 6回）

の流動も直接に仙台駅・青葉城趾へと流れていることが分かる。

(3) 駐車台数の変動

(a) 季節による変動

季節による各施設の平均駐車台数の変動を見たのが図-4である。春季は平日で約50台、日曜日でも平均36台と最も多くなっている。内訳をみると春は他の季節に比べ動物公園・ベニーランド（長時間駐車）、博物館の駐車台数が多い。これらは春に修学旅行や遠足が多いためと考えられる。青葉城趾は通年で平均している。秋季に仙台駅の駐車台数が多い。これは一般客の観光が多く、JRの連絡の為に仙台駅に集中していることが想像される。調査日を通じて常にプール前に路上駐車しており、特に春季は修学旅行の子供達が生徒会館で昼食を取っているケースが殆どであった。又、都心部への目的の為に路上駐車しているケースが多い。

(b) 春季における時間変動

季節の内では駐車台数が最も多い春季について時間の経過とともに駐車台数がどのように変動しているかを表したのが図-5である。特徴あるパターンとして朝夕ピーク、朝ピーク、昼ピークの3つが挙げられる。朝夕ピークパターンとしては仙台駅で、その大部分はJRとの接続のためである。朝ピークパターンは博物館である。昼ピークパターンは動物公園・ベニーランドで、滞在時間が長いことと昼食を取ることから正午頃にピークがある。その外の昼ピークパターンは青葉城趾・成田山・西公園等である。

観光バスでの最大の問題は昼食を何処で取るか

流動パターンが決ってしまう。昼食を取れる施設を整備すればパターンは変わりうると思う。

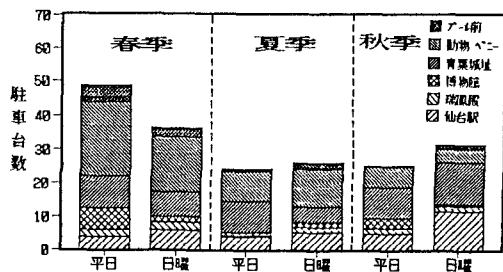


図-4 平均駐車台数の季節変動

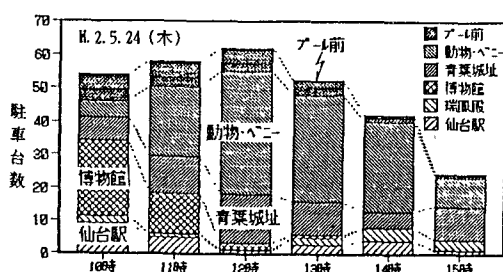


図-5 春季における駐車台数の時間変動

4. まとめ

本研究で明らかとなった流動実態は①松島・塩釜－青葉城趾－高速道の観光ネットワークが形成されている。②仙台駅は東北各地に集散する玄関口となっている。③青葉城趾以外の市内・他（大崎八幡等の北部・東部の観光拠点）には期待したほど流動がない。④市内（美術館・大崎八幡・プール前等）と都心部の流動も多い。問題点として①青葉城趾と周辺観光拠点（大崎八幡等）との連絡道路に対する不満（幅員、案内等）が多く流動も少ない。②仙台駅は駐車場に対する不満が多く改善が望まれる。③都心部にあっては観光バス駐車場がなくその整備の遅れが路上一時駐車増加の誘因となっている。特に問題点③については唯一路上一時駐車が可能だったプール前の路線も都市計画路線として改修中で、今後ここを利用して観光バスの行方が懸念される。「2. 路上一時駐車の実状」から見て都心部周辺に観光バス専用駐車場が最低6台分は必要である。その可能性として仙台市の施設やバス車庫の開放・路上一時駐車可能等を図れば仙台市の観光に大いに貢献出来ると思う。